

いつか子供達の前で宇宙の話をしたい(春夫様)。 傾聴ボランティアにも挑戦したい(ひろみ様)

浜松(ゆうゆうの里) 能瀬 春夫様(88歳)・ひろみ様(84歳)

令和元年8月 二人入居

父の背中を追いかけて辿り着いた種子島のロケット打ち上げ

春夫 名古屋生まれで、父と母と5人兄弟。私は上から二番目です。戦時中の鈴鹿には飛行場があり、飛行機整備士の父と私たちは鈴鹿で暮らし、終戦を迎えました。私が小3の時でした。鈴鹿の飛行場は閉鎖。父は小牧飛行場で飛行機を作ることになり、私たち家族は名古屋に戻りました。私は父のように飛行機を作りたいと、名古屋の大学では工学部機械科に学び、卒業後は新三菱重工・航空機製作所に就職しました。会社は1960年代にロケット開発

に進出し、私はその開発プロジェクトの一員となりました。30歳から定年までの間、種子島でロケットの打ち上げに従事しました。私の仕事は「打ち上げ屋」と呼ばれ、打ち上げから衛星を軌道に乗せるまでの任務です。私が携わった24機の打ち上げは全て成功しました。

便りが無いのは元氣な証拠。

家庭を守り子育てに専念しました

ひろみ 私も名古屋生まれです。家族は両親と子供3人。私は兄と妹に挟まれた真ん中です。父の転勤で茨城に住んでいる時終戦を迎え、私が中3の時一家は桑名に引越しました。優しい父は熱心に子供たちに習字を習わせました。

おかげで私は字を書くことが大好きになりました。私は高校を卒業後、名古屋の新三菱重工に就職しました。主人とはそこで知りあい、主人が26、私が23歳で結婚しました。子供を二人授かりました。主人が種子島に通うようになり母子3人の暮らしが始まりました。子育ても社宅のお付き合ひも、ほぼ私一人でこなしましたが、今思い返しても辛かった思い出がな

いのです。主人がたまに家にいると、幼い息子は「知らないおじさんがいる」と主人に寄り付きませんでした(笑)。

春夫 私はのんびり屋なので、妻には怒られっぱなしです。お陰でここまで来ることができました。感謝しかありません。

夫婦で介護の大変さを経験して、自立型に魅力を感じました

ひろみ 主人は55歳で退職して、東京の関連会社に再就職したため夫婦で関東に引っ越ししました。浜松で私の父や叔母達が一人暮らしをしていましたので、浜松に通ってお世話を続け、最終的に私たちは浜松に引越して全員を看取りました。介護の大変さを実感する

とともに、自立型のホームの存在を知りました。息子には親の介護という負担をかけたくない。遠くに嫁いで義父母を抱えた娘にも頼れないと思いました。そう考えた私たちは自立型のホームが良かった浜松で「ゆうゆうの里」に入居することにしました。

料理教室と釣りの楽しみ(春夫)。
自他ともに認める筆まめで人の繋がり大切に(ひろみ)

春夫 私はもっぱら妻の運転手として忙しくしています(笑)。自分の楽しみは料理教室、釣、スポーツ吹き矢かな。男の料理教室



に通って20年ですが、上手くなつたのは皿洗いです(笑)。皿洗いは家でもやりますよ。子供の時から魚釣りが好きで、仲間と海釣りを楽しんできましたが、今はボランティアとして、障がい者のみなさんと浜名湖の釣りを楽しんでいます。いつか子供達の前で宇宙の話ができればいいな。

ひろみ 私は自他ともに認める筆マメになりました。父のおかげです。何かあっても無くても友人達に手紙を書いて送っています。小学校時代の幼馴染、職場の同僚、住んだ各地にできた友人に宛てて、日々のちょっとした時間に手紙を書きます。相手の顔を思い浮かべると伝えたいことが尽きることはありません。また、手話も趣味にしています。手話はとても素晴らしいコミュニケーションツールですので、施設内にももっと広げたいです。傾聴ボランティアにも挑戦したいです。



入居者向けにロケットと宇宙の活動について講演する春夫様